

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200164		
法人名	社会福祉法人 福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム花安養		
所在地	福岡県福岡市西区下山門2丁目16番15号		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果確定日	令和3年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和3年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

平成24年4月に開設したグループホームです。近くには川や畑があり季節を感じながら散歩が行える環境に立地しています。建物も綺麗で、入居者様の共有スペースは広く、開放感あるグループホームになっております。
定期的に季節感ある行事計画を取り入れ、外出や屋内でのおやつ作り、昼食作り等も行っていきます。家庭的な雰囲気の中、役割作りで安心できる生活を送って頂けるよう、一人一人の生活に合わせた対応を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「花安養」は小規模多機能ホームと併設型の2ユニットグループホームである。静かな住宅街の一角にあり、近くには川が流れ、畑が広がり、のどかなたずまいで、季節を感じながら散歩を行っている。外出レクリエーションで「花見」「飾り山見物」「野球観戦」などを楽しんだ。小規模多機能ホームの「桜サロン」、公民館の「ふれあいサロン」に参加したり、地区の夏祭りなどにも利用者と一緒に参加している。二か月に1回地域の清掃活動に利用者、職員と一緒に参加するなど、地域との交流を深めている。コロナ禍のなか、思うような外出、交流もできなかったが、公民館の「ふれあいサロン」で交流のあった方から、電話連絡を頂いたり、手作りマスクを頂いた。来年度の行事予定としては、ドライブなど、それなりの計画を立てている。今後も地域福祉の中心となる事が期待される事業者である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を常時掲示し共有して実践しているよう努めている	法人の理念は事業所玄関に置かれている。事業所理念は各ユニットの事務所に掲げてあり、出勤時に必ず心にとめるようにしている。利用者には一日でも早く笑顔を持って、家庭的で安心できる場所となるよう理念にそい、各自個人目標を立てる。年2回個人面談にて管理者と話し合いの時間をもち、ともに理念を共有している。管理者は、個人面談以外にも、時間を作り職員に声かけ、聞き取りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に地域住民も参加され交流を図っていたが、令和2年2月からコロナウイルス感染防止の為、中止や参加出来ない状況になってしまった	併設の小規模多機能ホームの「桜サロン」に保育園児、ボランティアの訪問があり、踊り、歌、演奏などが催され、地域との交流が行われた。地域校区の夏祭りにも参加したり、2か月に1回の地域清掃活動に利用者、職員とともに参加した。下山門2丁目の定例会は事業所で行ない、自治会長、民生委員も参加された。9月には中学生の2日間の職場体験また、大学生の実習生の受け入れも行った。今年はコロナ禍の中、以前と同じような交流はできなかった。	地域住民との触れ合いも多く、施設行事にも参加してもらうなど交流が盛んに行われていた。今後も利用者が地域とつながりながら暮らして行かれるように、交流をされることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は運営推進会議を通じて、説明を行っていたがコロナウイルス感染防止の為、会議は開催できず、来設いただいた方々に対して、都度相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止の為、運営推進会議は開催できず、情報共有や意見交換はできなかった	運営推進会議は例年は二か月に1回開催し、小規模多機能ホームと合同で行なう。自治会長、包括支援センター、家族などの参加がある。今年はコロナ禍のなか会議は開催できなかったが、二週間に1回、家族に利用者の状況を伝え、意見を吸い上げ安心してもらえるようにしている。訪問が困難な家族には連絡をすることが増え、関係が密になった。	家族からも面会が思うようにできないが、近況報告をしてもらい、安心してもらうとの声が聞かれている。今後も近況報告などをこまめに行ない、安心して過ごされていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて福岡市へ相談や報告等を行っている	加算の相談はメールにて行っており、保護課との連絡も行っている。介護保険の更新の手続きは区役所に行った。運営推進会議には包括支援センターからの参加があり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実績はない。身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回開催している。身体拘束について正しく理解し、不適切なケアをなくすよう取り組んでいる	例年は法人で行なわれる外部講師、法人の講師などの、権利擁護、身体拘束廃止、良好な人間関係の構築などの研修を受ける。事業所内の委員会活動では、身体拘束廃止委員会を三か月に1回開催し、職員二人ペアで司会を行なう。玄関入り口は電子ロックであるが、ユニット間は施錠していない。夜間は家族の承諾の下、人感センサーを設置している。利用者により音楽を変え誰かわかるようにしている。離設に関しては地域の方に頼むこともある。	

R3.2自己・外部評価表(GH花安養)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修や委員会活動に於いて高齢者虐待防止法や不適切なケアについての理解・周知に努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者もおられる中、後見人と日常的に連絡をとったりすることで、安心して過ごすことが出来るよう支援していて、職員も日常的に学ぶ機会を持つことが出来ている	成年後見制度を利用している方が3名おり、制度についての話はしている。後見人と日常的に連絡を取ったりすることがあり、職員も学ぶ機会を持つことができ、概ねは理解している。制度利用時は、直接管理者が話を行ない、行政とは相談をする。パンフレットは事業所入り口に置いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭及び書面での十分な説明を行い同意を得ている。契約後に於いても必要に応じて相談援助を行い、解約時は退去後の生活に不安がないよう相談援助を行う仕組みとなっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2週に1回の家族連絡と半年に1回の家族面談を実施し、意見交換を行っている	二週間に1回、家族に、利用者の状況を伝え、意見交換を行ない、利用者の状態によりどのようにしたらよいか相談をしている。意見箱の設置もある。コロナ禍のなか、面会も困難な状況であり、毎月の「花安養だより」は写真をメインにし、よりよく利用者の状態が分かるように工夫した。些細な事でも連絡を密にして意見を集約し、それらを運営に反映させている。	意見箱があるが意見は何も入っていないとの事、「花安養だより」の中に意見用紙を入れ、記入してもらい訪問時に投函のみでできるような形で、意見を得やすい取り組みにしても良いのではないかと。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や日頃の業務時間を活用して業務改善など、職員の意見交換の機会を作り反映させている	月1回ミーティングがある。年度末から年度初めにかけてはユニット合同で行なう。職員からの意見も積極的に出され考慮してくれる。身体状況が変わり、入浴用の車いすの変更を提案し、変更してもらった。男性職員の着替えのスペースを作ってもらった。職場内の風通しも良く意見交換も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より各職員の様子に気を配り、個々の努力や実績に対して口頭にて評価している。また、定期的に自己評価を行い、管理者との面談を行い職員の状況把握とモチベーションの向上に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女問わず、年齢や経験年数・多職種の職歴など幅広い人材が勤務している中、時間をかけながら個々の能力を發揮させるため努めている	18歳から70歳代と幅が広いが、比較的若い職員が多い。男女比は6対4である。研修案内もあり、研修は持ち回りで参加している。実践者研修も会社負担で行ける。個人的な研修に行く時もシフトは考慮されている。管理者研修を受ける目的がある職員もおり、自己研鑽に励んでいる。園芸部門に得意な職員もおり、特技などを活かしながらコミュニケーションを取り、業務につなげている。	

R3.2自己・外部評価表(GH花安養)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修や委員会活動を通して高齢者虐待防止法・身体拘束廃止の意義について啓発活動に取り組み、人権の対する理解・周知に努めている	法人内に、昨年より、各施設から職員が1名選出され、給食、感染、接遇、リスクなどの委員会を立ちあげた。内部に持ち帰り勉強会を行う。実践者研修を受けた人はレポートを提出し、回覧、フィードバックをした。来年度も実践者研修には行くように予定している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な法人内外の研修受講を促し、受講後は都度報告会を開催し、実践へのトレーニングに努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や委員会など、法人内外の活動を通して交流し、サービスの質の向上を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時から入居後に於いても不安な事や困っている事・要望等を随時傾聴する姿勢にて真摯に対応するよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得してサービスを利用して頂くため、入居に至るまで、面談・連絡を繰り返し、想いや要望にしっかりと耳を傾け、不安や疑問解決に努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の精神的・身体的状態を日々観察し、今何がやりたいのか、いま必要な事は何かを考え、ご家族も交えて今後の支援を検討し対応している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常に於いて、指示的な声かけを避け、自発的な参加を促す声かけで、職員と一緒に行うことで共同生活の一員として入居者同士の関係を築いていくことを心がけている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の関わりの中で気づいた健康面・心理面を含め近況報告を適宜行っている。そして、ご家族対応で出来る限り定期的受診や急な受診をして頂きながら、共に支えていく関係を築いている		

R3.2自己・外部評価表(GH花安養)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人・知人の来設時は、コロナ過のため、短い時間ではあるが、一階玄関にて面会実施している。また、ご家族へ定期的に連絡をとり情報共有を図りながら可能な限り関係が途切れないよう支援している	コロナ禍の中、短い時間ではあるが、一階玄関にて家族、友人、知人などからの来訪を受けている。以前からの知人の訪問があり、楽しい時間を過ごした。外出の機会が持ちにくいなか、編み物など趣味の活動の個別プランを立て、行ってもらうようにしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が介入しながら入居者様同士の円滑なコミュニケーションが図れるよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、契約終了後も電話連絡や面会等、相談支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から本人の希望や生活の送り方など、意向を把握することに努め、個々に応じた生活の支援を個別対応できるよう努めている	管理者が本人自宅などを訪問し、本人、家族の想い、暮らし方の希望を聞き取り、フェイスシートに記録し、意向の把握に努めている。入居に至るまでは、面談、連絡を繰り返し、想いや要望にしっかりと耳を傾け、不安や疑問の解決に努めている。入居後、日々の会話、様子などから本人の望んでいる事を汲み取り本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には情報収集を行い、フェイスシートを作成し、入居後も入居者・ご家族からのヒヤリングを中心に情報の把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や状態観察など現状の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・アセスメントを通して職員やご家族、関係者による情報交換の後、本人や家族の意向を大切に介護計画に反映している	入居時に初期プランを立てる。入居後にアセスメントにより利用者が何を求めているのか正しくとらえる。モニタリングにて、変化を見逃さず、利用者及び家族の意向と満足度、目標の達成状況などを職員全員で話し合う。担当者会議にて医師、看護師、薬剤師などから意見をもらう。実施記録は介護計画に紐付き職員はきちんと計画を理解し支援を行っている。チームで取り組み現状の即した介護計画を作成している。	書類は大変見やすく、効率よく仕事に取り組みめるよう整理されている。今後もアセスメント、モニタリングを通しチームで取り組み現状に即した介護計画を作成されることを期待している。

R3.2自己・外部評価表(GH花安養)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や心身の状態について記録し、個人記録や申し送りにて情報共有を行うことで介護計画の見直しにも活用できている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月の会議に於いて入居者個々のその時のニーズや家族の意向に合わせた支援が行えるよう検討している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に傾聴ボランティアを招き、入居者と交流を図っている。また、ご家族了承のもと介護タクシーを利用され安全に送迎も行っている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望や意向を反映し、かかりつけ医との連絡・受診調整にて連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援を行っている	本人及び家族の希望や意向を反映し、かかりつけ医との連絡、受診調整にて連携を図っている。かかりつけ医、内科、整形外科、精神科、心療内科などには家族が対応しているが、対応が難しい時は事業所に対応する。家族が対応後は、家族から報告があり、職員全員で共有する。施設の提携医は各ユニットごとに、月2回往診がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気になった点を記録に書き留め、訪問看護師に相談し、都度指示を受けている。また、オンコールにて健康管理の指示を仰ぐことが可能である		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に協力医療機関との会議の場で係を作りと必要な情報交換を行っている。また、入院時は治療方針や退院後の生活レベルについてカンファレンスの機会の連絡調整を行っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化及び看取りに関する指針を説明している。また、定期的に家族面談を開催し、急変時の対応から最期の迎え方までご家族と話し合い同意書を作成している	契約時に重度化及び看取りに関する指針を説明し希望を聞いている。昨年はおひとり看取りをさせていただいた。提携医は24時間対応できる。訪問看護師が講師となり看取りについて又看取り介護に対する心の準備の勉強を行った。看取りの時期が来た時は、家族、医師、職員などと再度話し合いを行ない、同意を得てチームで支援に取り組んでいる。	

R3.2自己・外部評価表(GH花安養)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者一人一人の緊急時情報用紙を作成し、急変時の際は、迅速に救急隊へ情報提供行えるよう心掛けている。また、マニュアル及びフローチャートをもとに適切な対応を心がけている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成しており、迅速な対応を周知に努めている。消防署立会いによる日中・夜間想定避難訓練を定期的に行っている。訓練内容は全職員が理解できるよう努めている	消防署立ち会いによる日中、夜間想定避難訓練を定期的に行っている。本部に消防署職員が見え、AEDの、救急時の対応の訓練を行った。ハザードマップ、緊急時のマニュアルもある。近隣の川には警報がついている。昨年は、消防署に行き緊急時の対応などを学び、内部研修に落とした。地域の中学校の地震訓練に参加した。備蓄としては水、ビスケットなどが用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重した声かけ、対応に努め、内外研修を通して接遇意識の向上に取り組んでいる。	プライバシー保護や、接遇、言葉遣いについての研修も行っている。言葉遣いについては気が付いた時に注意をするようにしている。写真など個人情報の承諾も書面上で行っている。個々の想いや希望を表出しやすいように声かけ、好きな事を引き出すようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の想いや希望を表出しやすい雰囲気作りを心がけ、“どうしたいのか”を確認し支援を進めるよう声かけして自己決定を促している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やリビングを自由に行き来できるよう、見守りや付き添いを行うなど希望に応じて1対1での対応を心がけている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動理美容を利用し定期的に理美容の支援を行っている。必要に応じてその人らしい装いや化粧ができるよう支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・つぎ分け・片付け・食器拭きを無理のない範囲で職員と一緒に取り組んで頂いている。また、おやつ作りや食事作りの機会を設け、楽しんで頂いた	食事は本部の委託厨房より栄養管理、調理されたものが配食される。炊飯は事業所で行っている。食事は彩りが非常によく食欲をそそる。利用者は片付け、食器拭き、食器洗いなどできる範囲で職員と一緒にやっている。誕生日には本人の好きな食べ物を聞き、バナナ、イチゴなどをチョコレートフォンデュで楽しんだり、敬老会の時はノンアルコールビールで祝った。	

R3.2自己・外部評価表(GH花安養)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取状態の把握に努めており、バランスよく栄養確保ができるよう個別に工夫し提供を行っている。また、個々の状態に合わせ、細目に水分補給を行い、嗜好飲料などを提供する事で十分な補給が出来るよう対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々のレベルに応じた口腔ケアを行っている。また、内部研修や歯科往診時に口腔ケアの目的や方法を学びサービスの質の向上を図っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握努め、トイレ内での排泄が出来るよう誘導の声かけなど個別に対応している。個々のレベルに応じた排泄介助を行い、自立支援に努めている	全員の排泄チェック表があり回数、タイミングなどを把握している。ミーティングで提案し、こまめにトイレへの声かけ、誘導をすることで失禁が少なくなったり、パッドの汚れる回数が減った。拒否がある時はタイミングをずらしたり、声かけをする人を交代してみる。排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師や主治医の相談するなどして対応に取り組んで排便を促している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に応じて入浴時間の調整・入浴の頻度を調整し、職員の都合では決定しないよう支援している	週2回、個浴で時間帯は13:30頃から行っている。菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯を楽しみ、ゆっくりと入浴してもらう。入浴時には皮膚観察を行なう。皮膚の乾燥から掻きむしりがあり医師に相談している。入浴の時間は大切なコミュニケーションの場としている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて各自でテレビ等を観ながらゆっくりと休息できる時間を提供している。日中の活動量を増やす事で夜間安眠を図っているが、不眠時は傾聴対応しながら安心して休んで頂けるよう支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の状態観察をしながら症状の変化等、主治医へ相談報告を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前の体操、午後のレクリエーションを毎日の日課とし、参加を促している。また、食事の盛り付けや食器拭き、洗濯物干し等の役割を分担して頂いて気分転換を図っている		

R3.2自己・外部評価表(GH花安養)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過のため、外出は一度しか出来なかった(コスモス見学)が、外に行きたいと希望あった際は、近隣を散歩し気分転換ができるよう支援している	例年は年間行事として初詣、花見、地域行事などに年数回は全体で外出をしている。今年はコロナ禍のなか外出も思うようにできず、令和2年11月には事業所の車で、糸島公園にコスモス見学に行った。事業所の周りには畑があり、花、野菜などを近隣の方が届けてくれた。気候の良い時は数人で近隣を散歩したが、令和3年1月14日以降は控えている。ベランダのプランターで「ビオラ」のかわいい花を愛でている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の意向に沿って、ご家族の協力のもと現金の諸事をして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に合わせて、ご家族への電話でのやり取りができるよう支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有リビングには入居者と一緒に作成した壁紙を掲示している。 入居者が不快と感じないよう、エアコンを調整したり、遮光カーテンで直接的な日光を遮るなどして居心地良く過ごせるよう心掛けている	事務所を挟んで2ユニットが配置され、東側にはのどかな畑が見られ、西側には川沿いの広い窓がある。各ユニットには大きな天窓があり明るい日差しが降り注いでいる。キッチンからはゆったりとしたホールが見渡せる。壁には利用者と職員と一緒に作成した桜の絵が飾られ、季節を感じられる。園芸に詳しい職員がおり、ベランダの花壇が春の訪れを漂わせている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士がリビングなどで過ごせるよう、入居者の意思を十分に配慮しながら場所作りの提供に努めている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や寝具の持ち込みや、大切にされていた物など、装飾品・使い慣れた整容品を賜与して頂いている。適宜本人や家族と相談している	自分の好みの家具を並べ素敵な空間を作っている。居室には、洗面台、エアコン、ベッドなどが備え付けられている。以前通っていたサークルの写真や家族の写真も飾られ安心して穏やかに過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で安全に移動できるよう手すりを設置している。また、共用トイレの場所を把握して頂けるよう大きく表記している。 車椅子でも安全に移動が出来るよう、十分なスペースを確保している		